

令和 3 年度 東京都立田園調布高等学校 学校経営計画

東京都立田園調布高等学校長

福原 利信

I 目指す学校

本校は、「学芸を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、心身共に健康で、公正な判断力と強い実行力のある人間を育成する」ことを教育目標とする学校である。この目標を達成するために学習指導に最重点を置き、「誠実・敬愛・自主・自律」の生活信条のもと、学力や課題解決力、たくましい体力や豊かな人間性、他者と豊かに関わる力を高め、社会の変化に主体的に対応できる人材を育成する。

- (1) 学習指導の充実を図り、生徒が自ら学び自ら考える力を育成し、学力向上を図る学校。
- (2) 規範意識を培い、自主・自律の力を育てる学校。また、心身ともに健康で調和のとれた人間を育成するとともに、互いの人格を尊重し、豊かな人間関係を築く力を育てる学校。
- (3) 望ましい職業観や勤労観を育むとともに、グローバル社会に対応できる能力の育成を図り、高い志を実現できる学校。
- (4) 本校の伝統やこれまでの教育実践、生徒の実態を踏まえ、教育活動の特色化を推進する学校。
- (5) 本校の教育目標達成に向け、教員がその指導力及び校務遂行能力を十分に発揮し、経営企画室職員が根拠や法令に基づいた事務処理を遂行し、相互に連携・協力しチームワークよく協働できる学校。
- (6) 体育・健康教育の充実と学校保健活動の活性化を図り、生徒の健康や体力の保持増進を図る学校。
- (7) 防災・安全教育を推進し、地域と連携した社会貢献ができる学校。
- (8) 学校からの情報を積極的に発信するとともに、学校開放等を推進し、保護者や地域から信頼される学校。
- (9) 働き方改革を推進し、教職員がライフ・ワーク・バランスよく、生き生きと職務を遂行する学校。

II 中期的目標と方策

1 授業の充実

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実のため教員一人一人が授業力の向上に向け研鑽し、生徒の主体的な学習を促す教材開発及び指導方法の工夫を組織的に実践する。一人一人の取組を教科で共有し、さらには学校全体での取組へと発展させ、目標である学力向上の実践を図る。アドバンストクラス（国公立選抜クラス）における指導内容の充実に努めるとともに、教科横断型の、主体的・対話的で深い学びを実践する。さらに、自学自習及び読書活動の推進を通して、豊かな教養と幅広い視野を育む。

また、生徒の学力分析や生活状況調査、学校評価、授業評価の結果等から課題を抽出し、組織的な OJT や校内研修会等を通して授業力、進学指導力の向上を図る。

2 進路指導の充実

「田高進路プロジェクト」等の進路行事を組織的・計画的に行い、生徒の発達段階に応じたきめ細かなキャリア教育を推進し、生徒の進路希望実現を図る。

3 生活指導の充実

本校の生徒としての帰属意識を醸成し、生活規律の向上を図る集団づくりを組織的に推進する。

4 特別活動、部活動の充実

学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動において、高い目標に向かって取り組む活動を推進し、生徒の主体性、計画性、他者と豊かに関わるコミュニケーション能力を育てる。さらに、自主・自律の力を育み、生活習慣を確立させるとともに、体力の維持向上、心身の健康の保持増進に努める。

5 関係諸機関との連携・学校PR

近隣の地域や教育機関との連携・交流、学校設定科目「人間と社会」（「総合的な探究の時間」で代替履修）の活動、学校開放、教育活動に係る情報発信等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

○ 教育活動の目標と方策

経営目標達成に向け、教職員が一丸となって生徒主体の教育活動を展開し、以下の目標のもと、方策の確実な履行に努める。

1 学校経営・組織体制

(1) 目標

コロナ禍で刻々と状況が変わる中でも、目の前の生徒の為に何ができるかを全教職員で考え、「できる事をできる範囲で」全員で協力して取り組む。計画は担当者が行い、実施は全教職員が行う事とする。「チーム田園調布」の自覚をもって、ライフ・ワーク・バランスよく学校経営計画を着実に履行する。また、分掌・学年・教科・経営企画室間の連携を図り、企画調整会議を基軸とした学校経営を行う。

(2) 方策

- ① 学校経営計画に基づき分掌、学年、各教科は互いに連携・協力して、計画達成に向けた分掌運営・学年運営、教科指導を行う。学校はグランドデザインを作成し、分かりやすく本校の取組を周知する。また、PDCAサイクルを実践し、学校の教育実践を記録し今後の改善に活用する。
- ② 各種委員会の小規模化、校内研修会の定例化により、教育課題の機動的、戦略的な解決に努める。
- ③ ICT機器の活用を推進するとともに、令和4年より全校で実施予定のCYOD(Choose Your Own Device)について組織的に研究・研修し効果的な利用を促進する。ICTサポーターや部活動指導員の導入を通して、業務の分担や進捗把握、縮減や効率化を図り、教員の在校時間の縮小に努める。
- ④ 教職員一人一人がその職責を十分に理解するとともに倫理観や規範意識等をより一層高め、「教職員の服務に関するガイドライン」に基づき、服務の厳正に努める。

2 学習指導

(1) 目標

入学した生徒の学力を卒業時まで向上させ、生徒の自己実現を図ることに全教職員で取り組む。

教員が授業改善に努め、主体的・対話的で深い学びを実践し、学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びを実感できる授業、言語能力、知識・技能、思考力・判断力・表現力が身に付く授業を実践する。また、生徒には自ら学ぶ習慣を定着させ、定期考査や学力テストのデータ分析等を進路指導部、教科主任会、学年で連携して実施し、生徒の学力向上の状況を客観的に把握し、指導方法の改善を図る。

「第二期・進学指導研究校」「理数研究校」等、指定校事業での取組、学力スタンダード事業等の実施を活用し、目標達成を図る。

(2) 方策

- ① 各教科の定期考査、課題テスト等は共通問題とする。問題の作成に当たっては、担当教員間で十分に内容を検討し、知識・技能を問う問題だけでなく、思考力・判断力・表現力を問う問題も出題する。さらには、一人一人の解答を分析し、生徒の学習の不足している部分を教科で共有し指導の改善に役立てる。
- ② 生徒の主体的・能動的な学習姿勢を育むため、アクティブ・ラーニング型授業の推進等、指導方法を工夫する。また、教員間の相互授業参観（相互授業研究）を積極的に行い、他教科との学習内容の連携を工夫し教科横断型の内容も取り入れる。
- ③ 自宅学習課題については学年の教科担当者間等で出題の総量を調整し、課題や宿題を提出するための学習とならないような工夫を行う。生徒の主体的・自律的な学習活動を支援し、生徒の学力を伸ばす指導につなげられる自宅学習課題とする。
- ④ 「第二期・進学指導研究校」の指定を生かして他校の取組等を参考にし、本校の進学指導の参考とする。また、「指名制による授業研究」の活用を促し、教員の進学指導に係る教科指導力の向上を図る。
- ⑤ 「理数研究校」としての指定を生かして理系人材の育成を図るため、大学研究室との連携、教育委員

会事業への積極的な参加、理系人材を育む課外活動小実験教室を通して、理系志望者のへのキャリア教育の充実、個別受験指導を推進する。

- ⑥ 外国人指導員 J E T ・ A L T の活用を通して、生徒が日常的に生きた英語に触れ、英語 4 技能の向上を図るとともに、多様な文化への理解を深める。また、英語教材「Welcome to Tokyo」の活用を通して、日本・東京の文化、歴史等の理解の促進、英語によるコミュニケーション能力の伸長、国際理解教育の推進に努める。
- ⑦ 読書活動を推進し、学校図書館の有効活用を図る。また、ビブリオバトル（書評合戦）等の参加を通して、表現力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ⑧ 「エンジョイスポーツプロジェクト」モデル事業の指定を生かして、専門的な知見を有する外部機関と連携して、多様なニーズに応える運動機会の提供と健康や生活習慣をセルフプロモーションする実践を通して、豊かなスポーツライフを享受できる能力や態度を育てる。
- ⑨ 選挙権年齢の引下げに伴い、生徒自身が一層社会に関心をもち、社会の一員としての自覚を高めるため、「私たちが拓く日本の未来」等の活用を通して、主権者教育の充実に努める。
- ⑩ オリンピック・パラリンピック教育の推進とレガシー継承のため、全ての教育活動の年間授業計画に位置付け、学校全体で組織的・計画的に取り組む。オリンピック・パラリンピック教育講演会やパラリンピック競技種目の体験や学習等を通して、オリンピック・パラリンピック教育を継承し、目標に向けてベストを尽くす意欲や態度と他者を思いやり、社会に貢献する心を育てる。

3 生活指導

(1) 目標

本校の生活信条「誠実・敬愛・自主・自律」を指導し、挨拶・掃除の励行、生活規律の確立を図るとともに、多様性を受け止め社会を生き抜く上で必要な責任感、協調性、コミュニケーション能力、思いやりの心を身に付けた生徒を育成する。このため、生活指導部を中心とした組織的な生活指導を行い、授業規律及び遅刻指導の徹底を図ることで、規範意識と望ましい生活習慣の確立を図る。また、コロナ禍でこれまで通りの活動ができないが、部活動や学校行事の実施を工夫して、望ましい人間関係を確立し、互いに支えあい高め合う能力や態度を育成する。さらに、道德教育の全体計画、学校安全計画の全体計画に基づき、全教育活動を通して、道德教育、安全教育の充実に取り組む。

(2) 方策

- ① 生活指導は学校の目標のもと、全職員が生徒の健全育成を願い、チームで指導を行う。課題は学年、生活指導部、教職員で共有し協力して対応する。
- ② 生徒の課題を把握するために、生活実態調査を年 2 回行い、基本的生活習慣の改善点を明確にし、指導の確立を図る。挨拶励行、全館床清掃、時間厳守に向けた指導、身だしなみを組織的に行う。
- ③ 「SNS 学校ルール」に基づき、情報リテラシー、情報モラルを育成する。
- ④ 道德教育の全体計画に基づき、全教育活動を通して道德的価値を自覚させ、他者を思いやる心や規範意識の向上を図る。
- ⑤ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年 3 回実施する。いじめ防止・教育相談委員会の毎月の実施及びスクールカウンセラー、専門医派遣事業利用による医師の効果的活用を通して生徒の悩みの解決に努め、生命尊重に資する教育を推進するなど、生徒の健全育成に向け、家庭・関係機関と連携し、学校全体の相談機能の充実に図る。
- ⑥ 特別支援教育の視点に立って、特別な支援を要するケースには、ホームルーム担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、特別支援教育心理士等によるケース会議を効果的に機能させ、支援体制の充実に努める。
- ⑦ 放課後、モップで全館床清掃を実施するなど、校内美化に主体的に取り組む生徒を育成する。
- ⑧ 人権尊重の精神及びコンプライアンスの徹底を図り、体罰・暴言等の防止に組織的に取り組む。
- ⑨ 学校安全計画の全体計画に基づき、「防災ノート～災害と安全～」の活用等を通して、避難訓練、安全講話、防災訓練等を計画的に実施し、危険を予測し回避する能力や、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。防災訓練では、自助、共助の大切さや奉仕の精神を体得させるため、地域社会と連携し、地域に貢献する活動を取り入れて実施する。

4 進路指導

(1) 目標

生徒の進路目標を達成する指導が3年間系統的に行えるよう、進路指導部を中心として指導計画と立案する。これまでの進路指導の改善点を具体的に把握し、指導計画に反映させ改善を図る。

「第二期・進学指導研究校」として、進路指導に必要なデータの共有・活用を図り、国公立大、難関私立大をはじめとする、生徒の進路希望実現に向けた指導を、進路指導部を中心として計画的に行う。

(2) 方策

- ① 生徒が夢と希望をもてるよう教職員が温かく指導し、早期に高校卒業後の目標、「高い志」を設定させる。教職員は「田高進路プロジェクト」を実効性のある指導に改善を図る。その結果、進路に係る数値目標達成ができるよう、進路指導部・学年・教科が一体となった進路指導を計画的に行う。
- ② 生徒一人一人の力を分析し、指導に役立てるための、学力分析会、志望校検討会の実施を、進路指導部が計画し、全教員で協力して行う。
- ③ 生徒一人一人の「高い志」を設定させるために、大学ガイダンスや進路行事を進路指導部が学年と調整し、全教員で協力して指導を行う。また、生徒の学力向上のために必要な、補習・講習の計画を立て、全教員で実施する。
- ④ 定期考査や模試等の結果に基づく担任による個人面談・三者面談、進路指導部による進路相談等、面談・相談機能の充実を図り、生徒の進路意識の醸成に努める。また、生徒・保護者への進路情報の提供を通して、学校、生徒、家庭が一体となった進路指導を行う。
- ⑤ 学年での進路ガイダンスなどを通して、生徒のモチベーションの維持・向上を図る。

5 特別活動・部活動

(1) 目標

集団活動を通して、田園調布高校の生徒及び社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。また、生徒の体力の維持向上、健康の保持増進に計画的に取り組む。

(2) 方策

- ① コロナ禍での学校行事はガイドラインに従い、感染防止対策を十分に実施し、互いに高め合う集団づくりを意識し、帰属意識や参加する喜びが実感できるよう、指導方法を工夫する。
- ② ホームルーム活動では望ましい人間関係を形成し、帰属意識や連帯感を育む。
- ③ 学習だけでなく、部活動に参加し高校3年間で充実したものとなるよう生徒を指導する。部活動では部員同士の連帯感を深め、互いに切磋琢磨し、高め合う姿勢や態度を育む。
- ④ 「エンジョイスportsプロジェクト」モデル事業の指定、部活動指導員の配置、部活動振興予算重点配分を活用し、豊かなスポーツライフに向けた資質・能力の向上、部活動の活性化、体力の維持向上及び心身の健康の保持増進、豊かな人間関係づくりに組織的に取り組む。
- ⑤ 生徒会活動では、執行部を中心に委員会活動を通し、生徒自らが考えて活動できるよう教員が指導する。また、社会や地域に役立つ活動なども執行部を中心に考えさせ、実行する。

6 募集・広報活動

(1) 目標

本校の教育を広く都民及び中学生・保護者に発信し、本校の教育活動に対する理解や信頼を促進する。

(2) 方策

- ① ホームページで学校の特色を積極的に発信し、更新頻度を高めて本校の特色ある教育活動の様子を広く都民及び中学生に発信する。
- ② 学校訪問者への本校の特色や教育活動の様子に係る理解を促進するため、授業公開、学校説明会、中学校への模擬授業等を計画的に実施し、入学したい学校、受検したい学校とする。

IV 数値目標

- (1) 大学合格者数を、国公立大10名以上、難関私立大（早慶上理）10名以上、私立大（GMARCH）

- 50名以上とする。(前年度 難関国公立1名、国公立大5名、難関私大5名、GMARCH40名)
- (2) 生徒による授業評価における学習指導の「指導方法、指導内容の工夫」について、生徒の肯定的評価を90%以上にする。(前年度 90%)
- (3) 生徒の授業以外の自学自習時間の目安を、1年生2時間、2年生3時間、3年生4時間とし、各学年の達成率を30%以上にする。(前年度 25%(1年生:19.6%, 2年生:4.9%, 3年生:49.8%))
- (4) 12月時点で、1・2年生の部活動加入率90%にする。(前年度84%)
- (5) 入学者選抜応募倍率を推薦2.5倍以上、第一次募集1.8倍以上にする。
(前年度 推薦2.9倍、分割前期1.9倍、分割後期1.9倍)
- (6) 東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値を、東京都平均以上とする。(前年度 東京都平均とほぼ同じ)